



1GeV線型加速器最下流部に設置した、4台の偏向電磁石と3m長S-band加速管（手前）から構成されるエネルギー圧縮システム。このシステムによりビームエネルギーの広がりは2%から0.5%以下まで小さくなり、またその安定度は0.01%（rms）に到達した。

線型加速器からシンクロトロンへのビームトランスポートライン（LSBT系）の最下流部にすえつけたストリップライン型ビームモニタ（BPM）2台とスクリーンモニタ1台。写真手前のビームラインがLSBT系であり、奥側がシンクロトロンの周回軌道である。中央の垂直に立ったシリンダがスクリーンモニタ駆動部である。モニタからの蛍光は、手前のミラーで反射され、CCDカメラに導かれる。写真左右のケーブル付のチェンバがBPMであり、シンクロトロンへの入射ビームの位置、及び角度を非破壊で連続測定するため、信号をオシロスコープへと導いている。



蓄積リングに4箇所配置された30m長直線部のうち、セル30を下流より見る。従来あった4極電磁石、6極電磁石は取り外し、真空チェンバとステアリング電磁石を再設置した。真空チェンバには磁気シールドを巻き、地磁気による電子ビームへの影響を抑えた。